



1) アンコールワットから立ち昇る朝日鑑賞は世界中の観光客の憧れの瞬間。2) クメール古道の終着点にある「ピマーン遺跡」はタイ東北部のナコーンラチャシマ郊外にあり、タイのアンコールワットと呼ばれる大規模な遺跡。3) ハイヨン寺院の壁画彫刻。アンコールに攻め込んだチャンバ軍とクメール軍の白兵戦の様子やトンレサップ湖での水上戦の様子が生々しく描かれている。4) ジャヤヴァルマン7世によって創設された大乘仏教寺院「タ・プローム」5) ジャヤヴァルマン7世が亡くなった子供の為に建立したバンテアイチ



ユマールはクメール古道近くに位置する。見事な千手観音のレリーフが有名。6) アンコールワットを凌ぐ規模と推測される「ベンメリア遺跡」。崩壊するがままにされ独特の雰囲気が漂う。7) クメール古道上に点在する遺跡の一つ「プラサット・ムアン・タム」はカンボジア国境に近いタイ領にある。8) 天空の遺跡「プリア・ヴィヘア」。カンボジア平原を見下ろす標高 650mの断崖に建ちタイ国境と隣接する。9) ピマーン遺跡のジャヤヴァルマン7世の石像。



クメール古道 260Km

The Ancient Dharmasala Route

[カンボジア - アンコール遺跡]

直行便約 2 時間

アンコール朝の
黄金時代を築いた
ジャヤヴァルマン7世

アンコール王朝最大の版図を築いた王ジャヤヴァルマン7世は三島由紀夫の戯曲「癩王のテラス」にも取り上げられ、その壮大にして波乱万丈な生き様は今も人々の間で語り継がれている。

プリアカーンとタ・プローム遺跡から発見された碑文によると王はアンコール遺跡から現タイ東北部のピマーン遺跡を結ぶ直線260 Kmの「王の道(クメール古道)」を整備した。街道筋には巡礼者や商人、軍隊が利用できる宿駅が設けられ、国中に施療院も設置した。

元の使節に同行し後に「真臘風土記」を書いた周達観はアンコールの様子を「富貴真臘」と触れ絶賛している。しかしながら彼が訪れた1296年にはジャヤヴァルマン7世は既にこの世になく、西のスコーター朝や東のチャンバが次第に勢力を拡大するアンコール最後の繁栄の時期であった。

1925年、フランスの考古学者はクメール古道を「Dharmasala Route」と名付け、英語ではこの呼び名が定着している。仏教を伝達する意味の「Dharma」と場所を意味する「Sala」を組み合わせたのがその語源。クメール王朝初の大乗仏教徒の王であるジャヤヴァルマン7世にちなんでいる。

タイのピマーン遺跡では静かに笑みを浮かべたジャヤヴァルマン7世の像が発見され、献花やお供え物が途切れることがない。